

# そよかぜだより

第60号  
発行 2007.5.20  
毎月1回発行  
NPO法人  
障害者団体連絡会  
そよかぜ

<http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/>  
連絡先  
ひばり園 578-0855  
FAX 578-0466  
くれよん 578-2575  
つくしの家 578-0855  
あおぞら 570-6110  
(お問い合わせ)  
資源回収時のご連絡は  
「ひばり園」へ

「そよかぜの資源回収に協力します」

羽村団地長寿会のみなさまありがとうございます

東京都世田谷区のごみ集積

場から古新聞などを持ち去ったとして区清掃・リサイクル条例違反の罪に問われた回収業者12人に対する判決があり、7人が無罪、5人が有罪となったというニュースが最近の新聞で報道されました。

そよかぜが行っている資源

回収でも、同じような被害に何回もあっているのが世田谷のニュースには無関心ではないられません。とくに被害が大きいの羽村団地の回収でした。団地は世帯数が多く効率のよい回収ができるので狙わ

NPO法人そよかぜ

## 平成十九年度通常総会

日時 平成十九年六月十日(日) 午後二時より

場所 羽村市福祉センター大会議室

- 議題 一 平成十八年度事業報告と決算
- 二 平成十九年度事業計画と予算
- 三 役員改選

会員のみなさまの

ご出席をお願いします

れやすいのです。団地の回収日には一人の職員が特別に早く現地に行つて見張りをするなどしましたが、広い団地を一人で見るのは無理があつて効果がありませんでした。対応に苦慮していたところ、羽村団地長寿会の方からたいへんありがたい話がありました。「長寿会としてそよかぜの資源回収に協力したい。長寿会では毎週水曜日に団地の清掃活動をしているので、その日に会員に呼びかけて新聞を出せば、持ち去るものがないので注意できるので被害はないでしょう」というお話です。

スタートでしたが、それでもたくさん新聞を提供していただきました。この回収が定着してくるとさらに多くの回収量が期待できそうです。持ち去りの被害に對してもっとも有効な対応策は住民の協力です。

ご協力ありがとうございました。

4月の募金 23,528円

(順不同)

- |        |   |              |   |        |   |
|--------|---|--------------|---|--------|---|
| 帯刀 進   | 様 | 井上 誠一        | 様 | 山田 隆章  | 様 |
| 村野 理子  | 様 | 大野 元雄        | 様 | 平岡 知子  | 様 |
| とまと美容室 | 様 | 宇津木 牧夫       | 様 | 第一住宅   | 様 |
| 北野 浩美  | 様 | 清水 賢         | 様 | 山影 幸子  | 様 |
| 濱野 岬   | 様 | 清水 知子        | 様 | 市村 酸素  | 様 |
| エイ・アイ  | 様 | 古沢 奈保美       | 様 | 斉藤 忠   | 様 |
| 袴田 実   | 様 | 山下 暉枝        | 様 | 川井 幸子  | 様 |
| 久松 国夫  | 様 | 小林 有子        | 様 | 関谷 達夫  | 様 |
| 国本 昭治  | 様 | 田中 明子        | 様 | 関谷 和子  | 様 |
| 渡辺 時三  | 様 | 山崎 六雄        | 様 | 下田 コウ  | 様 |
| 阿部 郁子  | 様 | 天満 喜代子       | 様 | 増田 一仁  | 様 |
| 川崎 利男  | 様 | 橋本 亜紀子       | 様 | 宇津木 忠雄 | 様 |
| 榎本 正代  | 様 | 長谷川 キヌ子      | 様 | 松岡 竹子  | 様 |
| 尾又 恭子  | 様 | 角野 克子        | 様 | 角野 進   | 様 |
| 柴田 佳代子 | 様 | 小沢 達子        | 様 | 関村 理   | 様 |
| 本一東寿会  | 様 | 田中 稔         | 様 | 関村 英希  | 様 |
| 平野 喜子  | 様 | 大野 素子        | 様 | 吉野 満里子 | 様 |
| 永岡 智恵子 | 様 | ア-サロカワノ      | 様 | 本間 正彦  | 様 |
| 桜沢 喜作  | 様 | ア-バンディックス    | 様 | 清水 キヨ子 | 様 |
| プラナ療整院 | 様 | 匿名様 (2,770円) |   |        |   |

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

ご連絡は、ひばり園へ  
羽村市五ノ神2-6-7  
042-578-0855

くれよん4月の売上げ  
969,330円でした。

NPO法人 そよかぜの

## 《資源回収》に

ご協力をお願いします  
新聞、雑誌、ダンボール  
(ボロは扱っていません)

この収益は「つくしの家」の運営資金などになります。  
4月は31,395tでした。金額は415,660円となりました。  
みなさまのご協力ありがとうございました。

6月は第3日曜日17日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

# 全家連が破産して解散

## 9億円の借入金返済できず

### 精神障害者の声を代表する団体が消える

全国精神障害者家族会連合会（全家連）が4月18日に破産手続きを申し立て、受理され、同日解散しました。全家連は精神障害者の家族会の全国組織として1965年に結成され、傘下に約1600の下部組織としての家族会を抱え、会員数は12万人に上ります。わが国の精神障害者福祉の推進役として中心的役割を果たしてきました。解散したのは中央組織の全家連であって、その下にある各都道府県の家族会や、さらに末端にあつて作業所等を運営している家族会が解散したわけではなくありません。したがって作業所などを利用している障害者には直接の影響はないものとみられています。

談に乗るなど、福祉活動の中心にいた推進役がなくなったわけですから、その影響ははかりきれないほど大きなものがあるといわれています。下部組織としては頼りにしていたリーダーがいきなり消えて、船頭がいなくなった船に乗っているような不安を感じるでしょう。

厚労省も大変困惑して「福祉施策が後退しないようにしたい。精神障害者の声を代表する団体がなくなるのは行政としても得策ではない。今後は、都道府県の家族会が声をまとめてくれればいい」といっています。全国の声をまとめる作業は困難を極めることでしょう。いま精神障害者福祉は激動の時代に入り、全家連が果たすべき役割が過去にないほど大きくなったその矢先に、なぜこんなことになったのか、そのいきさつについて以下簡単に説明します。

### 施設建設のため8億借入

全家連が破産するきっかけになったのは1996年に栃木県喜連川町に建設した「ハートピアきつれ川」という施設です。建設費20億円が、

その後の運営の大きな負担となりました。国などから11億円の補助を受け、全家連の負担分は9億円でした。全家連は8億6千万円を福祉医療機構や大手銀行から借りました。その返済額は毎年6千万円になりました。その大半を財界や会員の寄付で賄う予定でしたが、ほとんど集まらなかったのです。返済に困った全家連は、別の目的で厚労省や日本財団から受けた補助金を返済金に流用しました。この補助金の目的外使用は2002年に発覚し返還命令を受けました。

その後、全家連は事業の縮小、運営の見直し、組織の再編を図るとともに、会員から寄付を集めるなどして借入金の返還に努めてきました。また有志の呼びかけで「全家連の再生を考えるつどい」が開かれ、寄付金募集が行われるなど組織を越えた支援の動き

### 社会参加のモデル施設

「ハートピアきつれ川」は温泉と22の客室を備えた宿泊施設があり、精神障害者が職員とともに接客や配膳などを行う全国初の施設です。宿泊と職業訓練を兼ねた先駆的な施設として注目されました。病院に閉じ込められがちだった精神障害者が、宿泊客や従業員と交わることで社会参加を促し、地域に溶け込んで暮らせる「ノーマライゼーション」を実現する施設として、今も関係者の評価は高い施設です。

「自然の中で精神障害者や家族が温泉でくつろげる施設があつてもいい」という当時の厚生省の構想を受けて建設されました。だからこそ建設費20億円のうち11億円も補助金を厚生省は出したのです。保養所と、障害者が訓練を受けながら運営業務を担当する授産施設（入所20人、通所30人）を組み合わせ、全国から集まる精神障害者の社会復帰訓練の場として大きな役割を果たしてきました。建設当時を振り返って全家連幹部は「精神障害者の福祉施策は、身体障害者や知的障害者よりも遅れていたため、追いつき追い越せという感じだった」といっています。

経営もはじめは赤字でしたが、いまでは順調になり、隣接する授産施設には地元農家が持つてくる野菜が並び、日帰り入浴もできる大浴場は地元のお年寄りの社交場になっています。これだけの施設をなくすわけにはいかないので、全家連は施設の事業は他の法人に譲渡して、その法人のもとで現在も順調に運営され、障害者や職員は全員継続して雇用されています。

施設経営は別の法人が引き継いでくれたものの、全家連が抱えていた借金まで引き継いでくれる法人がいるはずもありません。施設を手放し借金だけを抱えた全家連には、破産する道しか残されていませんでした。

全家連の小林理事長は「債権者のみなさまに心からお詫びしたい。全国の家族会の意思がバラバラになるのはまことにまづい、断腸の思いだ」と語っています。

破産の最大の原因は、明らかに借入金返済計画の甘さです。9億円もの巨額の借入金

を会員や財界の寄付で返すという計画は、いわば、他人のふところを当てにして借金を返そうという計画ですから、

甘いといわれてもしかたがありません。そのような甘い返済計画を認めてゴーサインを出し、11億円もの建設費を補助した旧厚生省にも責任の一端はあります。そのため補助金の不正使用が発覚したときも甘い処分しかできなかったのです。

この度の事件で、精神障害者を代表する全国組織がなくなりしました。今後の福祉のためにその損失は計り知れないほど大きなものがあります。

また、そよかぜも今後、増大する障害者のニーズにこたえるため新施設を計画するとして

ら借入金の問題は避けて通れません。その際にこの事件は大いなる教訓となります。